



目次	説教 イエス・キリストの目撃者となる	浅尾 勝哉	1
	大信仰問答 CATS・愛⑧		
	エッセイ「第2章 神」	丸 徹	2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(2)	後藤 憲正	3
	教会、この地とともに④⑥		
	文集「まじわり」とともに	会森 潔	4
	コロナの現場⑭		
	新型コロナウイルス感染症の中の聾学校	種茂 彰一	5
	コロナ禍の中で② コロナ禍の中の教会	齋藤 修	5
	次世代へのメッセージ② 自由に生きる課題	植 省三郎	6
	第71回大会報告		
	福音のためなら	藤田 英夫	7
	大会諸委員一覧		8
	教会ニュース		8



イエス・キリストの目撃者となる

なお道を進まれるイエスに従った。（マルコによる福音書10章46～52節）

あさ お かつ や
浅 尾 勝 哉

十字架が待ち受けるエルサレムを目前にしたエリコという町で、主イエスがなされた癒しの出来事が語られています。それは過越の祭りの時期であり、主イエスと弟子たちは多くの巡礼者と共にエリコからエルサレムに上ろうとされていました。町の門の外には物乞いたちが並んでおり、主イエス一行が通った時、バルティマイという名前の視覚障がい者の物乞いが「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫び出しました。彼は障がいによる苦しみに加え、物乞いをして人の慈悲に頼る以外に命を繋ぐ術はなく、苦痛に満ちた人生を送っていたに違いありません。しかし、主イエスに従ってきた人々が、憐れみを求めて叫ぶ彼を叱りつけて黙らせようとしたのです。この人々というのは弟子たちを含めて、ガリラヤから主イエスに招かれて同行してきた人々たちです。一方、バルティマイは主イエスの憐れみと癒しを渴望していました。しかし、先に招かれた人々が、彼の望みを断ち切ろうとしたのです。現在、私たちの周囲にもバルティマイのように主イエスの憐れみを必要とする隣人は多くいるはずです。私たちは、先に招かれたキリスト者として、無意識の内に隣人が主に近づくことを諦めさせていないか、主イエスを必要とする隣人に寄り添うことが出来ているのか、何時も自分を振り返る必要があります。更にキリスト者であれば、救いを求めている人を、主イエスと共に探し求めなければならないのだと思います。

バルティマイは必死でした。おそらく、彼は主イエスの癒しの御業について噂を聞き、知っていたのでしょう。この機会を逃すと、もう二度と主イエス

に会うことが出来ないと思い、必死に叫び続けました。その声を主イエスは受け止めて立ち止まり、「あの男を呼んで来なさい」と言われました。バルティマイに対する招きの言葉です。憐れみを求める弱者へ向けた救いの言葉です。この主イエスの招きの言葉でバルティマイの人生が変わるのです。また、この言葉は主に同行する人々の態度を完全に否定した言葉であり、更に彼らを悔い改めに導く言葉といえます。

人々はバルティマイを呼んで「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ」と伝えました。彼は上着を脱ぎ捨て、躍り上がって主のところに来ました。脱ぎ捨てた上着は長く、体全体を覆うように上から羽織るように着て、地面に裾を伸ばして座り、その上に施しを置いてもらえる様になっていました。彼の商売道具であり、唯一の財産であります。バルティマイは主イエスのもとに向かうためにそれを捨て去りました。この時、彼は上着と共に古い自分を脱ぎ捨て、新しい人間に着替えさせられたのです。

主イエスの「何をしてほしいのか」という問いかけに、彼は「先生、目が見えるようになりたいのです」とだけ願いました。主イエスは「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われました。バルティマイが主イエスに信頼を示し、主はその信頼が、あなたを救ったと言われ、もう自由に生きなさいと言われたのです。目を癒やされたバルティマイが選んだ自由は「なお道を進まれるイエスに従う」ことでした。そして、イエス・キリストの十字架と復活、贖いの目撃者として初代の教会の信仰者の一人に加わったのです。（新宮教会伝道師）